

## 資料

# 群馬県内のヤマビル分布状況 (2009年)

杉山直人<sup>1</sup>・坂庭浩之<sup>2</sup>

<sup>1</sup>群馬県立自然史博物館：群馬県富岡市上黒岩1674-1 (sugiyama@gmnh.pref.gunma.jp)

<sup>2</sup>群馬県環境森林部自然環境課：群馬県前橋市大手町1-1-1 (sakaniwa-hi@pref.gunma.jp)

キーワード：ヤマビル, 群馬県, 分布

## Land leech distribution of Gunma prefecture(2009)

SUGIYAMA Naoto<sup>1</sup> and SAKANIWA Hiroyuki<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Gunma Museum of Natural History:

1674-1 Kamikuroiwa, Tomioka City, Gunma Prefecture.

<sup>2</sup>Bureau of Forestry and Environmental Affairs, Natural Environmental Division:

1-1-1 Ohtemachi, Maebashi City, Gunma Prefecture.

Key Words : Land leech, Gunma prefecture, Distribution

## はじめに

ヤマビル (*Haemadipsa zeylanica japonica*) は環形動物門, ヒル綱, 顎蛭目, ヤマビル科に属している。陸上で生活し, 体の前端と後端に各1個の吸盤を備え, 後端の吸盤で体を支えて移動する (図1)。前吸盤の中には逆Y字型をした三唇状の唇があり, 一つの唇には顎歯と呼ばれる細かい歯が70~80個並んでいる。この歯で動物の皮膚を切り裂き, 歯間の唾液腺からヒルジンを出しながら吸血し養分としている。ヒルジンには血液の凝固阻止作用や痛みをな

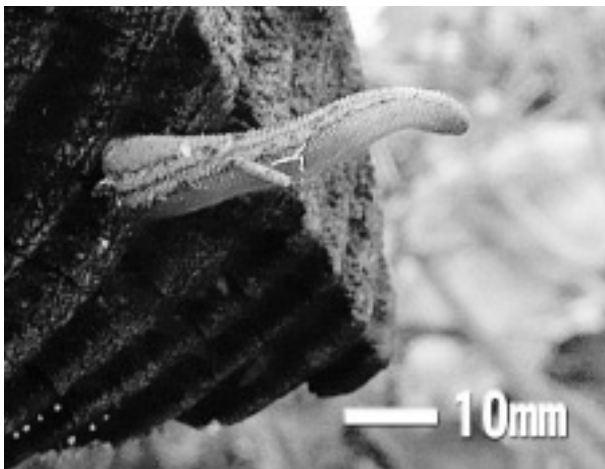


図1 後端の吸盤で体を支えるヤマビル

くすモルヒネ様作用などがあるため, 吸血には気づかないことが多い。吸血後もヒルジンの影響で皮膚から出血が続くため, ヒトが被害にあった場合は, 恐怖感を感じやすい (谷ほか, 2005)。

近年, こうしたヤマビルによる登山者や観光客等の吸血被害が群馬県内において頻発し, 観光地を中心としたヤマビルによる吸血被害の情報が新聞で報道されている。群馬県内の大部分の市町村では, 防除の対策が講じられておらず, 正確な情報が把握ができていないのが現状である。しかし, 中之条町では1999年より継続的に防除事業を実施し吸血被害を減少させてきた (中之条町, 2002, 2003, 2004)。一方で神奈川県ではニホンジカやイノシシなどの大型の野生動物がヤマビルの宿主となり, これらの野生動物が移動するにつれて, ヤマビルの生息域も拡大しているとの報告がある (神奈川県, 2009)。群馬県でもこうした大型野生動物との関係が指摘されている (中之条町, 2002)。

そこで群馬県内のヤマビルの分布や被害発生状況について把握し, 対策の基礎資料とすべくアンケート調査を実施したので報告する。

## 調査方法

アンケートを各市町村の鳥獣担当部署宛に送付した (図2)。各市町村には鳥獣担当部署のほか, 観光関係部署等へ

の照会についても依頼した。記入されたアンケートを回収し、結果を表にまとめた(表1)。また回収したアンケート結果に添付された各市町村内の分布図をもとに、群馬県全体の分布図を3次メッシュを利用して作成した(図3)。図にはメッシュの50%以上が分布域となる場合を「広範囲に生息」とし、それ以下を「狭範囲に生息」として表示した。

### ヤマビルの生息や被害に関する調査

(目的) 県内でヤマビルによる吸血被害が多く発生することから、その生息状況や被害の状況について、アンケートを実施します。各自治体のヤマビルの状況について、わかる範囲で回答をお願いします。

※ 自治体の範囲が広く地域差が著しい場合は、恐れ入りますが用紙を複数してお使いください。

自治体名 ( )	市・町・村
所属部署 ( )	電話 ( )
担当者名 ( )	

①今年度(前年度)、貴自治体でヤマビルが見つかっていますか?  
見つかっている・見つかっていない・わからない

②今年度、ヤマビル被害の報告がありましたか?  
報告あり・報告なし

③過去10年を振り返り、貴自治体におけるヤマビルの生息概況を教えてください。  
「生息域」が広がっている・変化なし・狭まっている・わからない  
※ 可能であれば、貴市町村の地図に生息域の概ねの範囲をお教えください。

貴市町村のヤマビルの状況について、お気づきのことがありましたら教えてください。

※ヤマビルに関する資料がありましたら、併せて御提供いただけますと幸いです。  
アンケートへの御協力ありがとうございます。

図2 ヤマビル生息や被害に関するアンケート調査用紙

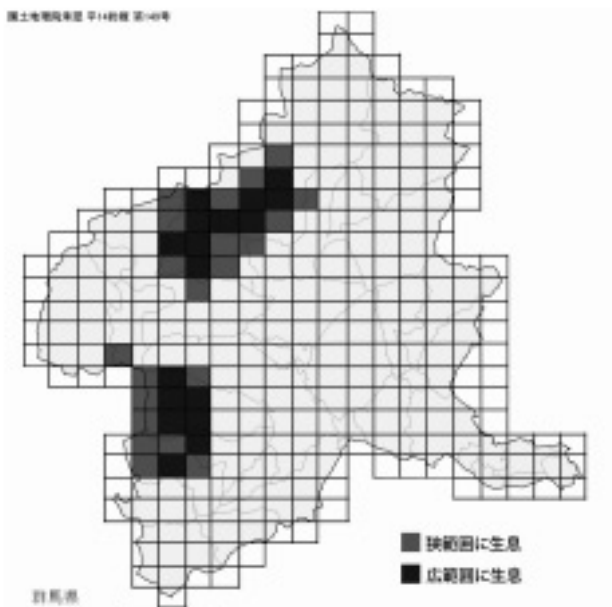


図3 2009年にヤマビルが確認された地域

## 結果

2009年、群馬県内各市町村のヤマビルの分布状況は以下のものであった。県北部の中之条町北西部～みなかみ町中西部、県西部の安中市西部～富岡市西部～下仁田町北部の地域では広い範囲にわたっての分布が確認された(表1, 図3)。また、長野原町、沼田市では狭い範囲ながらも生息が確認された(表1, 図3)。吸血被害は、ヤマビルが広範囲に分布している地域の多くから報告されている(表1)。吸血被害が報告された地域では、過去10年間で生息域の拡大が確認された(表1)。

## 考察

本調査の結果と既存の報告から、群馬県内のヤマビル分布状況について考察する。

神奈川県(2009)の「ヤマビルによる吸血被害の情報が寄せられた地域(ヤマビル研究会ホームページからの抜粋)」によると、群馬県では1980年以前から現在まで吸血被害が問題となっている。周辺の県では、新潟県、長野県、栃木県、山梨県において、1997～2004年に吸血被害情報が寄せられ、福島県では2004年以降に吸血被害情報が寄せられている。また、埼玉県や茨城県からは吸血被害の報告が寄せられていない。このことから、群馬県とその周辺では群馬県での吸血被害確認が最も古いことがわかる(図4)。群馬県のヤマビルは周囲の県から流入したのではなく、以前から生息していたものが、増加し分布を広げている可能性が高い。

ヤマビルの分布拡大は、ヤマビル自体が長距離を移動する運動能力をもっていないため、吸血のために付着した動物によって運ばれ、吸血後にヤマビルが落下し、当初の生



図4 群馬県周辺のヤマビルによる吸血被害：神奈川県(2009)で示された図を元に作図

表1 ヤマビル生息や被害に関するアンケート調査結果一覧

No.	市町村名	①発見 2009年	②被害報告 2009年	③過去10年 生息状況	④備考(市町村担当者による文章記述や添付された地図を要約)
1	前橋市	未発見	被害報告なし	変化なし	
2	高崎市	未発見	被害報告なし	不明	
3	桐生市	不明	被害報告なし	不明	観光担当、森林組合に照会したが、情報なし
4	伊勢崎市	未発見	被害報告なし	不明	
5	太田市	不明	被害報告なし	不明	
6	沼田市	発見	被害報告あり	不明	佐山町の林道大戸屋線にて確認。佐山町では最近増えているとの意見あり
7	館林市	未発見	被害報告なし	変化なし	日本野鳥の会館林分会の情報では、生息は確認していない
8	渋川市	未発見	被害報告なし	変化なし	
9	藤岡市	不明	被害報告なし	不明	山間地が多いため、生息の可能性はあると思われるが、ヤマビル被害の情報寄せられていないため把握できていない
10	富岡市	発見	被害報告あり	拡大	ニホンザル、イノシシ、ニホンジカ等の野生動物が生息する山中、山間部でヤマビルが多く確認され、被害報告がある。徐々に生息域が広がり、人里へも近づいていると思われる。旧妙義町西郡妙義山周辺の山中-山間部に分布(地図より)
11	安中市	発見	被害報告あり	拡大	イノシシ、ニホンザルの生息域拡大に伴い、ヤマビルも増加している旧松井田町西部に分布(地図より)
12	みどり市	不明	被害報告なし	不明	
13	北群馬郡 榛東村	未発見	被害報告なし	不明	
14	北群馬郡 吉岡町	未発見	被害報告なし	不明	
15	多野郡 上野村	未発見	被害報告なし	不明	
16	多野郡 神流町	不明	被害報告なし	不明	町内の森林組合からの聞き取りでは、H15年頃より山林内で数回目撃されたが、被害はなかったとのこと
17	甘楽郡 下仁田町	発見	被害報告なし	拡大	鳥獣被害(イノシシ・シカ等大型獣)の拡大に伴い、生息域が広がっているように思われる
18	甘楽郡 南牧村	不明	被害報告なし	不明	
19	甘楽郡 甘楽町	未発見	被害報告なし	不明	生息状況を把握しておらず、今年度の目撃、被害等の情報も寄せられていない
20	吾妻郡 中之条町	発見	被害報告あり	拡大	町西部の四方地区を中心に分布し、10年前より生息域を南方に拡大している。大型の有害鳥獣カモシカ、イノシシ、ニホンザルの被害が多い区域に拡大している。DNA鑑定の結果、カモシカ、イノシシ、ニホンザル、ヒト、イス、ネコなどあらゆる動物が咬傷されており、分布域の拡大にもかかわっていると考えられる。町として講じた対策は効果をあげつつある(別紙より要約)
21	吾妻郡 長野原町	発見	被害報告なし	変化なし	北軽井沢大学村にて目撃情報あり(地図より)
22	吾妻郡 嬭恋村	未発見	被害報告なし	変化なし	
23	吾妻郡 草津町	未発見	被害報告なし	変化なし	
24	吾妻郡 六合村	不明	被害報告なし	不明	近年、村の東部でこれまでいなかったシカの目撃情報あり。シカがヤマビルを運ぶとの話もあることから、生息域の拡大が懸念される
25	吾妻郡 高山村	未発見	被害報告なし	変化なし	
26	吾妻郡 東吾妻町	未発見	被害報告なし	変化なし	
27	利根郡 片品村	未発見	被害報告なし	変化なし	
28	利根郡 川場村	未発見	被害報告なし	変化なし	
29	利根郡 昭和村	未発見	被害報告なし	変化なし	
30	利根郡 みなかみ町	発見	被害報告あり	拡大	町内の広域に分布する。集落付近では見られないが、その裏山では見られる。また、標高の高い新潟県境付近の山岳地帯では発見されていない(地図より)
31	佐波郡 玉村町	未発見	被害報告なし	不明	
32	邑楽郡 板倉町	未発見	被害報告なし	変化なし	平坦地のためヤマビルの生息はないと思われる
33	邑楽郡 明和町	未発見	被害報告なし	不明	生息していないと思われる
34	邑楽郡 千代田町	未発見	被害報告なし	不明	生息しているかもしれないが、役場に被害等の連絡がないので実態は不明。水田地帯なので用水路等にチスイビルはいまだによくみられる
35	邑楽郡 大泉町	不明	被害報告なし	不明	
36	邑楽郡 邑楽町	未発見	被害報告なし	変化なし	生息は未確認である



息場所から移動することで発生すると考えられている。本調査でヤマビルの生息が広い範囲で確認された地域では、いずれも10年前と比べて、ヤマビルの生息域が拡大しているとの報告があり、同地域をかかえる各市町村担当者の多くが、野生動物の生息域とヤマビルによる吸血被害とが重なりと指摘している(表1)。また、群馬県(2009)によれば、近年、多くの野生動物が従来の生息地である山地から里地へと進出しているとの報告がある。これらは、群馬県内においてもヤマビルの分布拡大と野生動物の動向との間に関連があることを示唆している。

ヤマビルを運搬するのはどのような野生動物であるかは、ヤマビルの体内に残る野生動物の血液から吸血された野生動物を割り出すことで推定できる。中之条町(2004)では、採集したヤマビルのうち吸血が疑われた12個体の体液をDNA解析し、12個体中、ニホンカモシカ(3個体)、イノシシ、ヒト、ヤマドリ、ネズミ類(各1個体)からの吸血が推測された。秋田県(1997)によると、同県で行われた吸血対象動物の調査では、ニホンカモシカが61個体中36個体と群を抜いており、その他はノウサギ(8個体)、タヌキ、ツキノワグマ(各4個体)、ヒト、鳥類(各2個体)、アカネズミ(1個体)であったとの報告がある。神奈川県(2009)中の2007年調査によれば、ニホンジカ(15.1%)、イノシシ(10.7%)、タヌキ等(3.1%)、ニホンカモシカ(2.5%)、ニホンザル、ヒト、キジ(各0.6%)の割合で吸血されていたと判定された。

これらの3例から、主に吸血される動物種はノウサギ以上の大きさとなる大型の哺乳類で、地域ごとに種や傾向が異なっていることがわかる。これは地域ごとの野生動物の生息状況を反映していると考えられる。群馬県では現在のところ、ヤマビルの分布は特定の地域を中心として分布している(図3)。ニホンジカ、ニホンカモシカ、イノシシ等の大型哺乳類の更なる移動や里地への進出があれば、それに伴い生息域を拡大すると考えられる。

## おわりに

ヤマビルの生息地や被害が増加している一方で、中之条町では地域によるヤマビル防除の取り組みが効果を上げてきている。具体的な方法としては、下草刈りや枝打ちによってヤマビルの嫌う乾いた環境をつくり、直接駆除や炭、薬剤の散布によりヤマビルの数を減らし、電気柵や定期的な見回りによりヤマビルを運搬する野生動物の流入を防ぐというものである(中之条町, 2002, 2003, 2004)(群馬

県, 2009)。このような多方面からの取り組みを行った地域では、ヤマビルの生息数は激減した(群馬県, 2009)。

本アンケートの設問に対して、「不明」との回答を比較的多くの市町村から得たが、この回答の中には、「これまで生息していないので状況把握をできない場合」に加え、「生息していてもヤマビルという生物を認識していない場合」も含まれていると考えられる。これはアンケートに「ヤマビル」に関する説明資料を添付しなかったことが原因である。また、アンケートを行政機関のみに行ったことも反省点としてあげられる。今後は詳細な情報を持っていると考えられる他の関係者にも依頼し、より多くのデータから調査結果をまとめていきたいと考えている。

## 謝 辞

本資料を作成するにあたり、群馬県内各市町村の鳥獣担当部署ならびに観光関係部署には、アンケート調査や基礎資料の提供で御協力いただいた。中之条町経済産業課の関正剛氏には、同町の先進的な取り組みに関する資料を提供していただいた。また、ヤマビル研究所の谷重和氏・石川恵理子氏にもデータを提供していただいた。記して御礼申し上げます。

## 引用文献

- 秋田県(1997): 秋田のヤマビル～生態と防除～秋田県ヤマビル被害防除総合対策事業報告書。秋田県: 107pp.
- 群馬県(2009): 群馬県野生動物調査・対策報告会(2008年度)。群馬県: 36pp.
- 神奈川県県央地域県政総合センター環境部(2009): ヤマビル対策マニュアル。神奈川県: 37pp.
- 神奈川県ヤマビル対策共同研究推進会議事務局(2009): ヤマビル対策共同研究報告書。神奈川県: 107pp.
- 中之条町ヤマビル問題検討委員会(2002): ヤマビル対策中間報告書。中之条町: 31pp.
- 中之条町ヤマビル問題検討委員会(2002): ヤマビル対策中間報告書資料編。中之条町: 64pp.
- 中之条町ヤマビル問題検討委員会(2003): ヤマビル対策報告書Ⅱ。中之条町: 31pp.
- 中之条町ヤマビル問題検討委員会(2004): ヤマビル対策報告書Ⅲ。中之条町: 16pp.
- 谷 重和(2009): ヤマビル研究会。習志野市, <http://www.tele.co.jp/ui/leech/index.htm>.
- 谷 重和・石川恵理子(2005): ヤマビルの生態とその防除方法。森林防疫, 54(5): 87-95